

飯島 孝良 副所長

研 究 業 績 2025 年 4 月 1 日 現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著書（単）	『語られ続ける一休像—戦後思想史からみる禅文化の諸相』、ぺりかん社	2021. 7
著書（共）	『別冊太陽 一休～虚と実に生きる～』、平凡社（共著者）、頁 12-13・頁 100-105・頁 150-155	2015. 10
著書（共）	『近代の仏教思想と日本主義』、法藏館（共著者）、頁 347-377	2020. 9
著書（共）	『若冲画賛—賛を読んで知る若冲画の秘密』、朝日新聞出版（共著者）、86-91 頁	2024. 3
論文（単）	「鈴木大拙の禅思想史観を再考する視座：一九三〇年代から四〇年代の記述を中心に」、『東京大学宗教学年報』32、頁 117-135	2015. 3
論文（単）	「戦後日本における中世禅文化論と一休の「像」：芳賀幸四郎を中心に」、『日仏東洋学会通信』39、頁 1-24	2016. 3
論文（単）	「西田哲学における〈統一〉概念とボードレールの影響関係」、『東京大学宗教学年報』33、頁 85-99	2016. 3
論文（単）	「唐木順三の一休論における「伝統」と「近代」」、『現代と親鸞』35、頁 36-78	2017. 6
論文（単）	「一休「像」の戦後史—日本禅文化論の語る「伝統」と「近代」—」、東京大学大学院人文社会系研究科博士論文、全 317 頁	2018. 3
論文（単）	「市川白弦における「即」の論理—その批判的継承と一休の「像」—」、『宗教研究』391、頁 53-77	2018. 6
論文（単）	「鈴木大拙は日本における禅籍受容をどう考えていたのか—『禅思想史研究』を中心に—」、『近代仏教』26、頁 75-99	2019. 5
論文（単）	「大拙における禅思想史観と「日本」の位置—「業繋苦」と「靈覚」への問いとして」、『国際禅研究』6、頁 196-232	2020. 11
論文（単）	「大拙における「靈覚」：「矛盾的自己」をめぐる問いとして」、『西田哲学会年報』18（シンポジウム「靈性」）、頁 18-33	2021. 8
論文（単）	「鈴木大拙」、『国際禅研究』8、頁 189-199	2022. 1
論文（単）	「近代の居士禅における禅籍の位置—前田利鎌の「修養」を中心に—」、『禅学研究』100、頁 413-440	2022. 3
論文（単）	「室町期における「禅文化」はどうみられてきたか—戦前から戦後における文化史観の変遷をたどって—」、『禅学研究』101、頁 75-104	2023. 3
論文（単）	「《翻刻・解題》「養叟和尚入室法語」について」、『花園大学	2023.

	国際禅学研究所論叢』18、頁 1-48	3
論文（単）	「一休と浄土教—その虚と実のあいだで展開する「禅と浄土」像」、『禅学研究』102、73-101 頁	2024. 3
論文（単）	「酬恩庵一休寺の宝物について—史料調査の報告と紹介—」、『花園大学国際禅学研究所論叢』19、1-33 頁	2024. 3
論文（単）	「一休の実像へのアプローチ—その伝法意識をめぐって」、『季刊禅文化』275、25-34 頁	2025. 1
論文（単）	「塩津・応聖寺をめぐって—琵琶湖畔における禅宗と関連した中世仏教史の一側面—」、『花園大学国際禅学研究所論叢』20、1-32 頁	2025. 3
翻訳（単）	ディディエ・ダヴァン（飯島孝良訳）、「書評 小川隆著『神会：敦煌文献と初期の禅宗史』『語録のことば：唐代の禅』『臨済録：禅の語録のことばと思想』」、『駒澤大学禅研究所年報』23、頁 276-288【原文フランス語】	2011. 1 2
その他（単）	「或る夏の「帰郷」」、『アンジャリ』34、親鸞仏教センター、頁 32	2017. 1 2
その他（単）	書評「安藤礼二『大拙』 水野友晴『「世界的自覚」と「東洋」：西田幾多郎と鈴木大拙』」、『近代仏教』27、頁 80-86	2020. 5
その他（単）	書評「大竹晋『「悟り体験」を読む—大乘仏教で覚醒した人々』」、『近代仏教』28、頁 166-170	2021. 5
その他（単）	書評「山田奨治、ジョン・グリーン編『鈴木大拙：禅を超えて』」、『宗教研究』95(3)、頁 684-690	2021. 1 2
その他（単）	文庫版解説「日本の「伝統」を探究すること」、唐木順三『禅と自然』、法蔵館、頁 263-273	2022. 9
その他（共）	日本仏教学会編『仏教事典』（「一休」担当）、丸善出版（共著者）、頁 188-189	2021. 1
その他（共）	「対談一休問答」、伊野孝行『となりの一休さん』、春陽堂書店、頁 64-85・頁 130-149	2021. 3
口頭発表（単）	「鈴木大拙の禅思想史観をたずねて～『禅思想史研究第一—盤珪禅—』を手がかりに」、東北大学大学院日本思想史研究会例会（於東北大学）	2013. 1 2
口頭発表（単）	「20 世紀が創った一休像～一休とわれわれのあいだにある多面体」、フランス国立極東学院シンポジウム「一休とは何か—この妖怪に再び取り組む」（於東京日仏会館）	2015. 1 1
口頭発表（単）	「メディアとしての一休「像」の創作とその意義」、「仏教と社会」学会第 24 回学術大会テーマセッション B（於上越教育大学）	2016. 6
口頭発表（単）	「「瞎驢辺滅却」と一休—『狂雲集』におけるその精神を再考する—」、シンポジウム「一休と禅のこころ」（於花園大学）	2017. 7
口頭発表（単）	「一休さんとわたし」、一休さんシンポジウム（於酬恩庵一休寺）	2017. 7
口頭発表（単）	「市川白弦の一休論における「即」の論理—大拙禅学の受容として—」、日本宗教学会第 76 回学術大会（於東京大学）	2017. 9

口頭発表（単）	“Problematic issues on the image of Zen culture and Ikkyū Sōjun : the making in 20th-century Japan.” The fifth UT / UC Graduate Student Japan Studies Workshop (University of Chicago, USA.)	2018. 3
口頭発表（単）	「近代の居士禅における『臨済録』受容と反響—前田利鎌の場合—」、日本宗教学会第 78 回学術大会（於帝京科学大学）	2019. 9
口頭発表（単）	「大拙における禅思想史観と「日本」の位置—戦中から戦後の看方を軸に考える—」、国際禅研究プロジェクトシンポジウム「鈴木大拙の思想とその史的意義」（於東洋大学）	2020. 2
口頭発表（単）	「大拙の禅学における「霊覚」 —「矛盾的自己」をめぐる問いとして」、西田哲学会第 18 回年次大会シンポジウム「霊性」（於 Zoom）	2020. 1 2
口頭発表（単）	「一休の〈像〉を読む—禅文化の史的展開を表すものとして—」、2021 年度国際禅学研究所特別講演会（於 Zoom）	2022. 3
口頭発表（単）	「戦時下から戦後における「東山文化」観について—芳賀幸四郎の中世禅林文芸論を中心に考える—」、仏教史学会 2022 年 7 月例会（於龍谷大学）	2022. 7
口頭発表（単）	「近世文学における「禅」の受容—『本朝醉菩提全伝』の一休像」、日本宗教学会第 81 回学術大会（於愛知学院大学）	2022. 9
口頭発表（単）	「一休と南山城—アウトサイダーがみた動乱の時代—」、京都学講座「復活・躍動する京都」（於花園大学）	2022. 1 0
口頭発表（単）	「歴代祖師の肖像に付された一休のことばを読む—その伝燈意識について」、一休フォーラム（於学士会館）	2023. 5
口頭発表（単）	「酬恩庵一休寺所蔵資料からみえるもの—いまに伝わる一休の精神をめぐって」、一休フォーラム in KYOTO（於酬恩庵一休寺）	2023. 7
口頭発表（単）	「山東京伝における一休像：近世文藝の「禅」イメージ形成」、日本宗教学会第 82 回学術大会（於東京外国語大学）	2023. 9
口頭発表（単）	「電子達磨 #3 禅語漢語考釈支援システム」所収の禅籍と抄物について—その現状と活用—」、第 94 回禅学研究会学術大会（於花園大学）	2023. 1 1
口頭発表（単）	「一休像の受容における虚と実」、日本仏教総合研究学会第 22 回学会（於龍谷大学）【招待発表】	2023. 1 2
口頭発表（単）	「一休の「狂」と「自由」—その生涯とことばからみえる禅風—」、アスニーセミナー（於京都アスニー）	2024. 2
口頭発表（単）	「一休の像でたどる日本禅文化史序説—その文学と美術を読む」、花園大学サテライト ZEN 講座（於日経ビル）	2024. 2
口頭発表（単）	「鈴木大拙の公案論と「超智」—エラノス会議当時の問題意識と関連して」、科学研究費基盤研究（B）「禅から Zen へ—世界宗教会議を通じた禅のグローバル化の宗教史・文化史的研究」公開シンポジウム「世界宗教会議と仏教のグローバル化をめぐる諸相」（於龍谷大学）	2024. 6
口頭発表（単）	芳賀幸四郎からみる戦中／戦後の仏教史（禅文化史）を手がかり	2024. 6

	に」、親鸞仏教センター公開シンポジウム「戦後歴史学と宗教研究—教科書からこぼれおちたものを「民衆」・「宗教」から考える」（於東京大学）	
口頭発表（単）	「戦後歴史学と仏教史研究・再考—敗戦前後の禅文化史研究を軸に—」、第83回日本宗教学会学術大会（於天理大学）	2024. 9
口頭発表（単）	「一休と浄土教—その法然への評価と遊女の位置づけ—」、京都大学人文科学研究所共同研究班「「語りえぬもの」を語る行為とその思想表現に関する学際的研究—禅の言葉と翻訳を中心課題として—」研究会、（於京都大学人文科学研究所）【招待発表】	2024. 1 0
口頭発表（単）	「一休をめぐる盲女と遊女—森女と地獄太夫の虚実—」、一休フォーラム「一休と女性たち」（於学士会館）	2024. 1 1
口頭発表（単）	「近世文学における「禅」の受容と展開—『本朝醉菩提全伝』の一休像」、第95回禅学研究会学術大会（於花園大学）	2024. 1 1
口頭発表（単）	「矢島少林寺と守山—中世仏教史のなかの琵琶湖とその重要性—」、もりやま文化財講座「一休ゆかりの少林寺とその所蔵資料」（於守山市役所会議室）	2025. 3
口頭発表（共）	「近代の仏教思想と日本主義」、日本宗教学会第77回学術大会パネル発表（於大谷大学）	2018. 9
口頭発表（共）	「エラノスという交差点—「宗教学」の形成史的再検討」、日本宗教学会第81回学術大会パネル発表（於関西大学）	2021. 9
口頭発表（共）	「戦時下の仏教—近代仏教研究からの視角—」、仏教文学会2022年4月例会シンポジウム（於Zoom）	2022. 4
口頭発表（共）	“New Regards on Japanese Rinzai Zen Buddhism” (Organized Panel Session), Association for Asian Studies 2025 Columbus, US.	2025. 3
その他（単）	「一休宗純と一休さん—その〈像〉の展開を追う—」、2021年度花園大学まなび庵 [https://www.youtube.com/watch?v=Doqhd3Moayo]	2022. 1
その他（共）	「日仏東洋学交流史の再検討」、日仏東洋学会公開シンポジウム〔司会・コーディネート〕（於東洋文庫）	2017. 1 1
その他（共）	「末木文美士『思想としての近代仏教』を読む—著者を迎えての書評会」、第15回「仏教と近代」研究会（於佛教大学）	2018. 2
その他（共）	「日本学における日仏交流のこれまでとこれから—文学研究・宗教研究から考える—」、日仏東洋学会公開シンポジウム〔司会・コーディネート〕（於東京日仏会館）	2019. 2
その他（共）	「安藤礼二『大拙』を読む—合評会」、科研基盤研究（C）「日米の新資料による日本仏教グローバル化過程の研究—鈴木大拙を事例として」公開ワークショップ（於キャンパスプラザ京都）	2019. 3
その他（共）	『近代の仏教思想と日本主義』刊行記念オンライン座談会（於YouTube） [https://www.youtube.com/watch?v=Fvg3gv1Qtwk]	2020. 1 2
その他（共）	一休寺開山堂クラウドファンディング関連企画「一休フェス〜keep on 風狂〜」トークイベント「語られ続ける一休」（於酬恩庵一休寺） [https://www.youtube.com/watch?v=fktZtSHvvaQ]	2021. 1 1

その他（共）	お寺で対談「飯島孝良（花園大学国際禅学研究所専任講師）×横田南嶺（臨済宗円覚寺派管長）」 〔 https://youtube.com/playlist?list=PL_HtHEIkhsbrmM2RcbkEg_pYWod7ua1CW 〕	2023. 2
--------	---	------------
